

1 共通目標

基本目標 たくましく豊かな心を持つ青少年の育成

【留意点】

評価は4段階評価で、

4 十分達成 3 概ね達成 2 あまり達成できていない 1 ほとんど達成できていない
という視点で行っています。

目標	取組の内容	評価	分析及び改善策
心の豊かさ と自ら学ぶ 力を育てる 学校教育の 実現	1 豊かな心の育成 ① いじめ、不登校への適切な対応	3.5 妥当	○生徒指導部会の毎週実施により、早期発見と組織対応が充実した。 ○学習規律や支持的風土は高い。 ○道徳に対する研修意欲は高い授業の充実を目指し、実践する。 ●達成感を味わい活動意欲が向上している。継続指導することで自己肯定感を高めていく。
	② 道徳教育の充実を図るとともに、友愛の精神を尊重し、思いやりの心を育む	3.5 妥当	
	③ 学校行事や部活動を通して、礼節と協調性を養い、たくましい心を育てる	3.5 妥当	
	2 基礎学力の充実 「めあて、振り返り」の完全実施とわかる授業の実践 ② 家庭学習の習慣化	3.5 妥当 3.4 妥当	○全国・県学力調査、標準学力調査の分析と課題実践で、全職員が学力向上対策に努めた。 ●週末課題などの取組を家庭との連携で質を高め、家庭学習を充実させる。
	3 健康・安全教育の推進 ① 環境美化と整理整頓の指導徹底 ② アレルギーへの共通理解と対応の徹底 ③ 防災や危機意識の涵養と自己防衛意識の指導（メディア安全を含む）	3.4 妥当 3.7 妥当 3.4 妥当	○家庭との連携と校内管理の徹底を行うことでアレルギー対応の確実性を維持できた。 ○様々な学習会を実施することで、自己安全意識を向上させた。 ●校内のゴミ分別の徹底により、紙資源の確保とゴミの減量率をさらに高める。
	4 特別支援教育の充実 ① 一人一人のニーズに応じた支援と計画 ② 生徒の実態把握と対応策の策定及び共通理解と共通実践の充実	3.1 妥当 3.3 妥当	○不登校対策部会と学年職員の連携強化でさらに実践を向上させる。 ●集団に馴染めない生徒数が増加傾向にある。各生徒の状況に即した対応を実践する。
	5 国際化への対応 ① 人権意識の高揚と豊かな人間関係づくり ② 日本の文化や地域の理解（各教科） ③ グローバルな視野を持たせる取組（総合的な学習）	3.0 妥当 3.1 妥当 3.0 妥当	○1年NICE(ALTとの英語交流)、3年シボルム校留学生との交流で様々な国の人と交流を行った。 ●人権教育研修会などへの職員参加率を向上させる。(各学年1名ずつ参加する等)
6 教育環境の整備 ① 安全点検の実施と学習環境整備の徹底（PTA学校ボランティアの活動含む） ② 通信やHPなど学習成果の発信と共有 ③ 労働環境の適正化と働き甲斐のある職場づくり	3.3 妥当 3.2 妥当 3.1 妥当	○図書室のリニューアルと整備を行った。(PTA、もちの木会の協力) ○通知表など職員事務の見直し実施した。 ○PTA行事の見直しと精選を実施した。 ●新校務支援システムの活用で、指導を充実させる時間を確保する。	
7 指導力の向上 ① 指導力の向上（必須） ② 教科研究と校内研修の充実	3.5 妥当 3.5 妥当	○各職員が研修の必要性を理解し、指導力の向上と分かる授業の実現に向けて研鑽した。(教科・道徳) ○道徳の指導評価などの視察研修や校内実践を次年度に生かす。	

2 自己評価のまとめ（成果・課題等）

（1）成果

- ① 生徒指導部会毎週実施による組織的対応強化で共通理解・実践が充実
- ② 全国・県学力調査の分析と全教科の一点突破目標の設定・実践で、標準学力調査結果が向上
- ③ 活動の充実と成功体験により、生徒の自己肯定感と主体性が向上

（2）課題等

- ① 生徒同士が考え、議論し合う道徳授業の実践に向けた研修
- ② 不登校や学級不適応など、要配慮生徒とその保護者への対応
- ③ 学習用具の保管場所や登下校時の荷物の量についての検討

3 学校関係者評価

平成31年2月26日（火）に実施

- どの項目に対しても、具体的実践が行われている。また、その取組に対しての生徒評価、保護者評価、職員評価の材料も適正にとられており、どの評価も妥当である。
- 学力向上に向けた取組は、今後も継続して実践してほしい。
- 家庭学習の習慣化については、通塾率が高いこともあり、塾に通っているということでの安心感があるのでは無いか？そういった点を考慮しつつ、家庭との連携をとると良い。
- 2学期に2年生の自己評価や授業評価が低かったが、3学期にはその評価が向上し、生徒たちの意欲の向上が見られる。さらに、指導を継続し、主体性を高めてほしい。
- PTAの学校行事参加や地域ボランティアとの環境整備への保護者参加については、その活動の意図が保護者に浸透すれば、もっと参加率が増えるのではないかと思う。
- 人権意識の高揚の評価について、学校がいじめを許さない指導を熱心にしており、生徒自身にも「いじめ対策特別委員会」を組織して活動させている点から、この点の評価は、もっと数値は高くなって良いと思う。この点については、学校評価の質問項目を改善して、校内の取組が反映するようにした方が良い。

4 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

○学力向上に向けた取組

全国学力学習状況調査、県学力調査の分析のために自校採点を行い、早い段階で把握して校内指導に生かす。

標準学力調査を、指導の成果検証の指標に据えて、学力向上対策と教職員の資質向上を図る。

○家庭学習の習慣化

分かる授業に向けてさらなる実践を積み重ね、授業を中心として学習の理解を図る。学習事項の定着のために家庭での復習の大切さを家庭と共有し、家庭学習定着の共同実践を行う。

○PTAの学校行事参加

PTA本部役員と連携し、PTA活動の見直しや焦点化を図り、より充実した活動を目指す。

○人権意識の高揚の評価について

学校評価における質問事項を工夫し、日頃の活動と人権意識の結びつきが、評価に反映されるように工夫を行う。